

令和4年度九州地方鉱山保安協議会 議事要旨

1. 日時： 令和5年2月28日 13:00～14:30
2. 場所： 九州産業保安監督部保安会議室及び Teams リモート会議

3. 出席者

(学識経験者)

島田委員(会長)、佐藤委員、田中委員

(鉱業権者代表)

草場委員、三上委員、平川委員

(鉱山労働者代表)

大野委員、大濱委員、高野委員

4. 議事次第

(1) 開会

(2) 九州産業保安監督部長挨拶

(3) 議事

○会長の選出について

【報告事項】

- ① 九州管内の鉱山保安の概況
- ② 令和4年度中央鉱山保安協議会の報告

【審議事項】

令和5年度九州産業保安監督部の取り組み(案)について

5. 協議会結果

- 部長挨拶の後、島田委員が委員互選により会長に選出された。その後、島田会長により、以下について議事が進行された。

(1) 報告事項について

九州管内の鉱山保安の概況と令和4年度中央鉱山保安協議会の報告について、各資料に基づき事務局から説明を行い、その後、質疑応答が行われた。

(2) 審議事項について

令和5年度九州産業保安監督部の取り組み(案)について審議が行われた。委員による採決の結果、取り組み案は了承された。

6. 議事概要

(1) 【報告事項】①九州管内の鉱山保安の概況(資料1)

- 事務局から、九州管内の鉱山保安の概況を説明。

(委員からの意見・質問)

- 管内災害事例2において、当鉱山では切羽においてブレーカーにて大塊を割ることはしていなかったのか。

◇ 事務局より以下の通り回答

ブレーカーを1つしか所持していないため、小割する箇所に大塊を運搬し、小割を実施していた。本災害は小割箇所へ運搬する前に発生した。よって、対策として記載のことを実施する。

- 第13次計画の九州管内での目標について未達とのことだが、原因の分析を引き続きお願いしたい。

(2) 【報告事項】②令和4年度中央鉱山保安協議会の報告(資料2, 2-1, 2-2, 2-3-1, 2-3-2, 2-4)

- 事務局から、令和4年度中央鉱山保安協議会について報告。

(委員からの意見・質問)

- 特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針に係る答申の第6次方針の概要において、坑廃水処理について、「カーボンニュートラル実現を見据えた鉱害防止事業の付加価値向上」との記載があるが、どのようなものか。

◇ 事務局より以下の通り回答

鉱山跡地の緑化による炭素固定化や新エネルギーの立地の推進を考えている。またパッシブトリートメントによる処理も引き続き検討していく。

- 特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針に係る答申の第5次方針の取組と評価において、気象等の自然災害による影響で当初計画と実績に乖離が見られたとのことだが、このようなアクシデントも計画に織り込む時期に来ているのかもしれない。

(3) 【審議事項】令和5年度九州産業保安監督部の取り組み(案)について審議(資料3-1, 3-2)

- 事務局から令和5年度九州産業保安監督部の取り組み(案)を説明し、その後審議。審議後に取り組み案について委員の採決を行い、出席者の全員賛成で取り組み案は了承された。

(委員からの意見・質問)

- 立入検査について検査重点項目として2項目挙げているが、項目だけでは具体的にどのようにするのか鉱山は困るのではないか。他鉱山で発生した災害や対策に

については管内の鉱山で共有されているのか。また災害の分析やどのような状況で発生しやすいかを確認しているのか。

◇ 事務局より以下の通り回答

検査重点項目については、チェックリストを作成し、検査時にヒアリング等を行うことにより確認を実施することとする。

発生した災害は本省に集約されて、九州管内へは当部よりメールマガジンにて共有しており、鉱山同士、情報の共有はされていると認識している。また当部の知識や経験を基にメールマガジンで「鉱山にお願いしたいこと」として再発防止のガイド(アドバイス)を追記している。分析については、本省にて実施している。

- 重点項目の「火災防止」について、管内の火災の災害事例は設備の老朽化に起因しているのではないか。

◇ 事務局より以下の通り回答

ご指摘のとおりである。一方、事例3については、メーカー純正品が額面通りの強度を満たさないものであったことが原因であるため、老朽化とは異なる事象である。本件については、メールマガジンにて管内鉱山に水平展開して類似災害防止をお願いしているところである。

- 全国鉱山保安週間における保安講話について、保安講話のテーマはどのように選んでいるのか。

◇ 事務局より以下の通り回答

講話担当者である課長等の管理職が、管内で発生した災害事例の紹介や自分の経験を盛り込みながら講話を行うこととしている。